

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 26 日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520258

研究課題名(和文) 私家集の書誌学・文献学による解析を通じて基底部から新しい和歌史を構築する

研究課題名(英文) It is rebuilt the history of waka through analysis by bibliography, the philology of the Shikashu (a private poetry collection).

研究代表者

小林 一彦 (KOBAYASHI, Kazuhiko)

京都産業大学・日本文化研究所・教授

研究者番号：30269568

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円、(間接経費) 480,000円

研究成果の概要(和文)：冷泉家時雨亭文庫に収蔵される私家集を調査した経験をもとに、関連する伝本を博搜、全国各地に出向き、書誌学的な調査を行った。冷泉家時雨亭文庫蔵私家集については、それぞれの典籍類から得られた書誌学的な知見を切り口に、王朝の女流歌人について和歌史における位置の見直しを試みた。また冷泉家時雨亭文庫蔵私家集を基準伝本として、その転写本系統に位置すると思われる写本とのテキストの比較検討を行い、「明日香井和歌集」についてはその成果を発表した。また、私家集の注釈面における研究では、成果として鴨長明と寂蓮法師の和歌について、彼らの私家集を中心に選釈を行い、公刊した。

研究成果の概要(英文)：Based on the experience that investigated Shikashu (a private poetry collection) of the Shigure-tei bunko library of the Reizei family, I found out an associated biography book and went out in the many places of Japan and conducted a bibliography-like investigation. About Shikashu of the Shigure-tei bunko library, I tried a review of the history of the waka about a female poets of the Heian era based on the bibliography-like knowledge obtained from Classical Documents. In addition, on the basis of Shikashu of the Shigure-tei bunko library, I performed the comparison with the book thought to be the transcription book and announced the result about "Asukai wakasyu". In addition, I chose waka of Kamono-Chomei and Jakuren priest mainly on Shikashu and, in the explanatory note study, published it.

研究分野：文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：私家集の書誌 私家集の伝本 私家集の和歌表現 冷泉家時雨亭文庫 明日香井和歌集 鴨長明集

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 冷泉家時雨亭叢書(全84巻)の完結  
冷泉家時雨亭叢書(朝日新聞社、1992~2009)の刊行とその完結が書誌学的な研究に寄与したところは大きい。平安時代書写の私家集、自筆本「拾遺愚草」ほか俊成・定家・為家ら、歴代の私家集・詠草類をはじめ、『中世私家集一(~十一)』、『資経本私家集一(~四)』、『承空本私家集上(中・下)』、『素寂本私家集西山本私家集』など、ほとんど自筆原本ないしは原本に近い、成立間もない同時代の中世私家集の古写本が陸続と出現。それらが精巧な影印とともに、書誌学的な見地から原本を精査の上、執筆された解説を付して紹介された。

(2) 『新編私家集大成』CD-ROM版の刊行。  
和歌史研究会編の書籍版『私家集大成』全7巻(明治書院 1973~76)を契機として、私家集の研究は大きく進展を見た。その後、校訂本文ながら『新編国歌大観』(角川書店1983~92、私家集も多く含まれる)の書籍版が刊行され、続いてCD-ROM版もリリースされて検索が容易になり、和歌テキストをめぐる研究環境は、著しく好転した。さらに2008/12、学界待望の『新編私家集大成』が古典ライブラリーよりCD-ROM化され、慶長期頃までの和歌テキストのデータベースが、ほぼ完成された。

### (3) web公開テキストの充実

資料のデジタル化・web上での発信など情報科学技術の発達により、人間文化研究機構国文学研究資料館や宮内庁書陵部・国立公文書館内閣文庫をはじめ、各研究機関・博物館・図書館・大学などによって、精巧なデジタル画像がネットで公開されるようになった。

## 2. 研究の目的

現代に伝わる唯一の歌の家、藤原俊成・定家父子に始原を發する京都の冷泉家。その御文庫「時雨亭文庫」に収蔵されてきた私家集類は、古典和歌の指標となる典籍類といっても過言ではない。勅撰和歌集を日本古典文学の一大山系の尾根とすれば、その撰集資料としての私家集群は、広大な裾野の部分にあたる。日本の古典和歌の、いわば基底部にあたる私家集群に目を向け、それらを書誌学的な見地から解析することにより、テキストや歌人特有の表現、また人物像にまでも立ち入って、和歌史の再構築をはかることを目的とする。書誌学上の新知見を活用して、指標となるべき基準テキストである冷泉家時雨亭文庫蔵私家集群と、その転写本および他の系統尾書写本を比較検討・校勘することにより、私家集の現存諸本の系統について考察する。また、その過程で明らかになった書誌学上の新知見をもとに、私家集のテキストからうかがいあがってくる文学史上の諸事象についても見直しを行う。転写本・末流写本の書誌学的な原本調査を通じて、私家集の現存諸本

の系統分類についても、見取り図の再構築を目指す。

## 3. 研究の方法

研究開始当初の背景で指摘したように、冷泉家時雨亭文庫をはじめとする私家集の影印版による公開・公刊と、webによるデジタル・データの公開により、膨大な私家集群のテキストが原本さながらの姿で容易に参看できる時代が到来した。

研究代表者は冷泉家時雨亭叢書の刊行に際し、『中世私家集六(~十一)』、『古筆切拾遺(二)』、あわせて叢書全84冊のうち12冊の刊行に解題執筆者として関与した。また、『新編私家集大成』CD-ROM版においては、編集委員として、中世成立の私家集類のほとんどの本文および解題の点検に携わった。このうち私家集119集については、底本を時雨亭文庫蔵本へと差し替えたが、その過程で、鎌倉期成立の私家集のほとんどの本文点検を実際に担当した。

こうした冷泉家時雨亭叢書や『新編私家集大成』CD-ROM版に携わった経験やその時のメモなどを活用しながら、新たに各古典籍の転写本の原本を精査することにより、書承関係の有様を解明するとともに、典籍類の価値を正しく認識、そのテキストを文学史上に位置づける作業を試みた。

具体的には、私家集の伝播・流布の始源に位置する冷泉家時雨亭文庫蔵本を基準伝本として押さえ、全国に点在する私家集伝本およびその関連書籍について、たとえば日本大学総合学術情報センター蔵「明日香井和歌集」など、地道な原本調査を行った。

また、冷泉家時雨亭文庫に収蔵されている「資経本」「承空本」「擬定家本」などに分類される個々の私家集において、典籍としての書誌学上の情報が、各歌人の研究に寄与するケースについて分析、考究した。

## 4. 研究成果

(1) 冷泉家時雨亭文庫の私家集については、特に平安時代の女流歌人につき、古典籍としての書誌学情報を切り口として、あらたな歌人論を、公益財団法人冷泉家時雨亭文庫の機関誌『志くれてい』に連続掲載する機会を得た。「王朝の女流歌人 御文庫の典籍から」シリーズがそれである。第一回の「小野小町」では、平安時代の写本である唐紙装飾本と承空本を比較して論じた。第六回の「清少納言」では資経本と承空本、さらに擬定家本という永仁年間前後の書写である重要文化財の三本を扱った。第八回の「伊勢大輔」では、平安時代の写本や資経本・擬定家本など五本もの古写本をそれぞれに検討した。また第十一回・十二回の「右大将道綱母(上)」「同(下)」では、定家監督書写本と資経本を比較した。如上に示した具体的な事例のように、私家集のテキストに関し、それぞれ複数の冷泉家時雨亭文庫所蔵の古写本

を紹介、比較することで歌人論およびそれぞれの私家集の特徴を論じた。

また、基準伝本としての冷泉家時雨亭文庫蔵本に関して、その転写本から、原本である冷泉家時雨亭文庫蔵本が失われた場合でも、さかのぼって書誌学的な論究を行った。たとえば第九回の「賀茂保憲女」では、定家監督書写本「賀茂女集」の前表紙に打ち付け書きされた定家の文言が、子孫を長らく規制したことを指摘した。および宮内庁書陵部蔵の「少輔入道定長百首」(この本は現在では失われた冷泉家旧蔵本の転写本であることは間違いない)の識語に記された定家の文言との共通性を指摘し、これまで識語とされてきた当該箇所は、本来は前表紙であったことを書誌学上の情報から指摘した。

(2) 冷泉家時雨亭文庫蔵私家集を基準伝本として、その転写本系統に位置すると思われる写本との比較研究を、「明日香井和歌集」において実施、時雨亭文庫蔵本と日本大学総合学術情報センター蔵本とを徹底的に比較検討し、その成果を『中世文学と隣接諸学第6巻 中世詩歌の本質と連関』(竹林舎)に掲載した。また、冷泉家時雨亭文庫の典籍類がどのように守られて現在に至ったか、現存する唯一の歌の家である冷泉家にスポットをあて考察、日英バイリンガル版『世界へひらく和歌 言語 共同体 ジェンダー』(勉強出版)に「歌の家」の力 冷泉家を中心に」を執筆した。

(3) 私家集の注釈研究では、鴨長明と寂蓮法師の和歌を、主として長明の私家集「鴨長明集」および寂蓮の私家集「寂蓮法師集」から秀歌を選び、それに詳細な注釈を加え、コレクション日本歌人選(第 期)の中の1冊『鴨長明と寂蓮』(笠間書院)として上梓した。

このほか、中世文学会春季全国大会(中央大学)において「鴨長明の和歌を読む」と題して口頭で研究成果発表を行った。同発表では、鴨長明の青春時代の和歌から、晩年の傑作『方丈記』へとつながると思われる彼の資質や目線(対象への迫り方)について指摘したことに加え、従来ひとくくりにして処理されてきた「寿永百首家集」についても、その成立について新見を提示した。さらに口頭発表としては、京都産業大学日本文化研究所研究会において「京都産業大学附属図書館蔵『万葉集撰要佳詞』の書誌について」と題し、新出資料を書誌学的に分析調査した結果を報告した。なお、この口頭発表をもとに、景井詳雅氏と共同で「京都産業大学図書館蔵『万葉集撰要佳詞』翻刻 付四本校異」をまとめ、日本文化研究所の紀要に掲載した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 13 件、うち査読有 2 件)

小林一彦、景井詳雅「京都産業大学図書館蔵『万葉集撰要佳詞』翻刻 付 四本校異」(『京都産業大学日本文化研究所紀要』19、62-111、2014、査読有)

小林一彦「王朝の女流歌人 御文庫の典籍から (十一) 右大将道綱母(上)」(『志くれてい』127、4-5、2014、査読無)

小林一彦「王朝の女流歌人 御文庫の典籍から (十) 重之女」(『志くれてい』126、4-5、2013、査読無)

小林一彦「王朝の女流歌人 御文庫の典籍から (九) 賀茂保憲女」(『志くれてい』124、4-5、2013、査読無)

小林一彦「王朝の女流歌人 御文庫の典籍から (八) 伊勢大輔」(『志くれてい』123、4-5、2013、査読無)

小林一彦「王朝の女流歌人 御文庫の典籍から (七) 二条院讃岐」(『志くれてい』122、4-5、2012、査読無)

小林一彦「王朝の女流歌人 御文庫の典籍から (六) 清少納言」(『志くれてい』121、4-5、2012、査読無)

小林一彦「王朝の女流歌人 御文庫の典籍から (五) 出羽弁」(『志くれてい』120、4-5、2012、査読無)

小林一彦「王朝の女流歌人 御文庫の典籍から (四) 周防内侍」(『志くれてい』119、4-5、2012、査読無)

小林一彦「末の松山波もこえなむ 東日本大震災と方丈記・源氏物語そして古今和歌集」(『藝芸文研究』101、63-79、2011、査読有)

小林一彦「王朝の女流歌人 御文庫の典籍から (三) 殷富門院大輔(下)」(『志くれてい』118、4-5、2011、査読無)

小林一彦「王朝の女流歌人 御文庫の典籍から (二) 殷富門院大輔(上)」(『志くれてい』117、4-5、2011、査読無)

小林一彦「王朝の女流歌人 御文庫の典籍から (一) 小野小町」(『志くれてい』116、4-5、2011、査読無)

〔学会発表〕(計 5 件、うち招待講演計 1 件)

小林一彦「京都産業大学附属図書館蔵『万葉集撰要佳詞』の書誌について」(京都産業大学日本文化研究所研究会、2013年9月27日、京都産業大学中央図書館ホール)

小林一彦「近衛内前の詠草から」(後桜町天皇二百年祭記念シンポジウム、2013年7月14日、京都産業大学壬生校地むすびわざ館ホール)

小林一彦「鴨長明の和歌を読む」(平成24年度中世文学会春季全国大会、2012年5月27日から29日、中央大学)

小林一彦「鴨長明と『伊勢物語』」(国文学研究会、2011年11月5日、慶應義塾大学第一校舎)

小林一彦「<招待講演>鎮魂 あこがれのれの東北 方丈記・源氏物語そして古今和歌集」(古典の日推進フォーラム 2011、2011年11月1日、国立京都国際会館メインホー

ル)

〔図書〕(計6件)

小林一彦『鴨長明 方丈記』(100分de名著シリーズ、2013、NHK出版、全168頁)

小林一彦『鴨長明 方丈記』(2012、NHK出版、全102頁)

小林一彦『鴨長明と寂蓮』(コレクション日本歌人選049、2012、笠間書院、全126頁)

小林一彦『古典籍研究ガイドス 王朝文学をよむために(分担執筆「著者自筆本の復元『土左日記』の場合」)』(人間文化研究機構国文学研究資料館編、2012、笠間書院、全445頁、222-231担当)

小林一彦『中世文学と隣接諸学第6巻 中世詩歌の本質と連関(分担執筆「善本とは何か『明日香井和歌集』の場合」)』(竹林舎、2012、全597頁、495-510担当)

小林一彦『Waka Opening Up to the World Language Community and Gender / 世界へひらく和歌 言語 共同体 ジェンダー(分担執筆「The Power of Poetic House Particularly Relation to the Reizei / 「歌の家」の力 冷泉家を中心に」)』(日英バイリンガル版、勉誠出版、2012、全424頁、99-105担当)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小林 一彦 (KOBAYASI, Kazuhiko)

京都産業大学・日本文化研究所・教授

研究者番号：30269568